

Project
2

組織等の枠を越えた連携による 切れ目のない支援

切れ目のない支援って?

幼稚園、小学校、中学校などの学校同士のつながり(縦の連携)や、医療や福祉などの関係機関との協力(横の連携)を深め、子どもたちを継続的に支えるしきみのことです。

何で必要な?

枠にとらわれず、様々な組織が協力し合うことで、より一人ひとりに合った支援を行うことができるからです。

「切れ目のない支援」を実現するための 3つの柱と4つの方向性

一人ひとりに応じた支援を行うために、取組における3つの柱と、4つの方向性をもとに、切れ目のない支援の実現に向けて取組を進めます。



**方向性 1
体制**
個別の教育支援計画を軸とした連携体制等の整備

- 個別の教育支援計画の共通化等による活用促進
- 関係機関と情報共有のルールを検討



**方向性 2
居場所**
多様な学びの場の確保と安全・安心な居場所づくり

- 「(仮称)校内教育支援センター」を段階的に整備
- 放課後等の子どもの居場所づくりと連携した安全・安心な場の確保

**方向性 2
居場所**

**方向性 3
保護者**
保護者の安心につながる支援等の充実

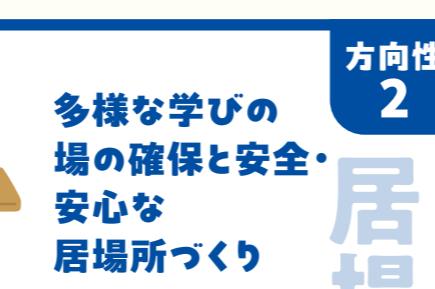
- 支援情報を総合的にまとめたポータルサイトの整備を検討
- 民間団体と連携した保護者支援



**方向性 4
教職員**
学校・教職員の取組を支える環境の整備

- 教職員等の専門的知識やスキルの向上に向けた研修の充実
- 支援ニーズに対応した中央支援学校高等部分教室等の学校化

**方向性 4
教職員**
学校・教職員の取組を支える環境の整備



**方向性 3
児童生徒主体の学びへの転換**

Project
3

教職員が働きやすい環境づくり

何で必要な?

教職員の長時間勤務や教員不足は、全国的な課題となっており、本市でも例外ではありません。そのため、教職員が無理なく働ける環境を整えることが、学校の魅力を高め、子どもたちへのより良い教育につながると考えています。

「働きやすい環境」をつくるための取組

学校現場と教育委員会との意見交換により得たアイデアやこれまでの取組をもとに、「4つの対応の方向性」に整理し、実施します。

方向性
1

教育課程の編成による 創造的な余白づくり

教育課程を工夫して時間を作り出すことで、教員が子どもとじっくり向き合える時間や、自身の学びに使える時間を確保します。
たとえば…登下校時刻や清掃の見直し

方向性
2

教員の負担軽減・ 業務改善

業務の効率化などにより、教員の負担軽減・業務改善を図ります。
たとえば…文書作成などへの生成AIの活用



児童生徒の資質・能力の育成

方向性
3

児童生徒主体の 学びへの転換

教育の質を高める授業改善を行っていきます。GIGA端末を活用しながら、教員と子どもたちが共につくる学びを進めています。

方向性
4

しくみづくり・環境整備・ 人材確保

学校現場との意見交換等を踏まえて教職員の負担軽減につながるしくみづくり・環境整備を行うとともに人材確保の取組を進めていきます。



水泳の外部委託の拡充

時差勤務制度の導入

●業務改善等実践校の取組を拡充していきます!

令和8年度
(2026)
43校

令和10年度
(2028)
83校

…全ての
市立学校へ

令和11(2029)年度まで並行して「未来を育む学校サポートプログラム(第3次教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針)」の取組を実施します。